上信越

小出俣川・マチホド沢

メンバー:三井、中島(ぶなの会)
遡行日:11年7月23日～24日

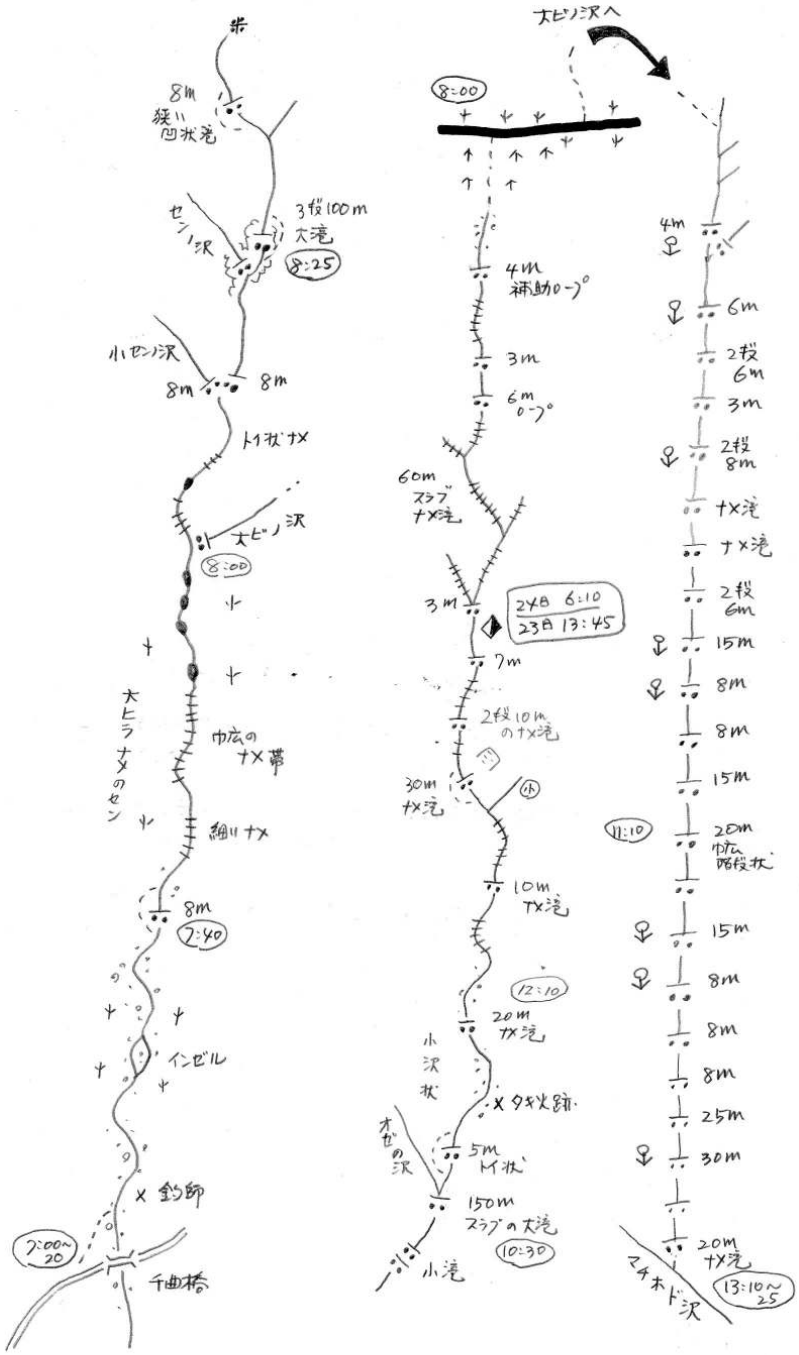
当初2泊3日で「奥聖の滝沢」に行く計画だったのだが数日前の大雨で林道が崩れ、通行止めになったり、水量もすぐには平水に戻らないだろう、との判断で急遽沢の変更を考えた。
「マチホド沢」は僕が以前から行こうと思っていた沢で、中島さんは行った事はあるがかなり以前の事なので「構わない。」という事で決まり。

前夜、水上の道の駅で仮泊、早朝川古温泉に移動して山行スタート。
右岸林道を小一時間歩き「千曲平」(某ルートガイドにはチクマダイラとルビがあるがこれはセンゲンダイラです。)から入渓。
いきなり釣師と遭遇し「ゲェッ。」と思ったが素直に先行させて貰い、平凡な沢を足早に進む。
8m の滝を右岸から巻くと長いナメの沢床となる。「大ヒラナメのセン」と呼ばれていて、滝もいいけどきれいなナメが続く沢もいいもので捨てがたいね。
間もなく20mのナメ滝で右から出合うのが下降する予定の「大ビノ沢」、そこから僅かに進み、「小センの沢」を分けると前方に大きな滝が瀑水を落としているのが望める。
マチホド沢は2本の大滝を抱えているがその1本、3段100mの大滝だろう。
滝口に立ち、ロープをつけると一段目を登るがここは容易。核心は2段目。二人でアレコレとルートを探るが、某ルートガイドの瀑水右の垂壁から行くルートや、瀑水左から登るルートなどが考えられるが、いずれにしても手こずりそうではある。で、ここは定石通り、というか滝の右の凹角を登って巻く事に。
滝上に降り、数本の滝をやり過ごすと2本目の大滝、150m のスラブ滝が姿を現す。この滝は写真などで圧倒的な大滝を想像していたのだが水量は少なく、幅広のスラブの細い溝の間をスダレのように流下していてそれほどの大きさは感じない。
滝の中ほどまでは乾いたところを選んで時折手を突く程度で登って行ける。
半分ほど登ると潅木の生えたリッジで滝は分かれていて左は「オゼノ沢」、右が本流となる。
ここでロープをつけ、中島さんがリード。通常はオゼノ沢側の右岸のブッシュに入って巻き、オゼノ沢を横切って本流に戻るルートがとられるようだが、中島さんはそのオゼノ沢の水流に沿って直登していく。
フォローして登るとそれ程難しい訳ではないが、部分的に傾斜のきついところやスタンスの細かいところがあり、何にしても高度があるので結構緊張する。
大滝の上はナメ状滝というのか、滝状ナメといえばいいのか、そんな感じの渓相が続く。
部分的にスリップしそうな嫌な感じのところがあり、ロープをつけるまでもないのだが、足が止まり何度か中島さんからお助けをだして貰い登る。
ひたすら登って行くと、ナメっぽい傾

斜のある沢床は変わらないガ、両岸が草付きになって開けてきて源頭に近づいてきたのを感じる。
まだ時間は早いが、この辺りでテン場を見つけないとあとは稜線を越えるしかなくなる。ザックをおろしテン場探しにかかる。
二俣状になっているので二人別々に先の様子を探ってみるも、沢は傾斜がきつくなっていて、両岸の草付きも急で平地はない。やむをえず少し沢を戻ったところの、一畳ほどの河原に強引にツエルトを張る。小滝の直ぐ下で、石がゴロゴロしているが横になれればこの際文句は言うまい。
雨でも降れば酷いことになりそうだが、そうならないように祈るだけか。

[二日目]
早めにテン場をでる。傾斜のあるナメ状の沢床がまだ続いているが、徐々に沢は側溝のように狭まり、両岸のブッシュも煩くなり、間もなく枝尾根の上にでた。
小出俣山のピークはそこに見え、ピークを踏んだ事はないので行ってみてもいいのだが、藪漕ぎがしんどそうでその気がおきない。枝尾根を少し下ってから大ビノ沢に向って下降する。
大ビノ沢は某ガイドに書かれている通り滝が多い。出来るだけクライムダウンや巻き下るようにしたが、それでも都合 8 回の懸垂下降を強いられた。
懸垂した後観察すると、巻き下れたところもあるので懸垂下降の回数はもう少し減らせると思うが、上からでは中々その辺は分からないしね。
ただ、残置のスリングが少なく、またあっても古いものであまり下降ルートとしては取られていないと感じた。
出合いの 20m のナメ滝を下降して、マチホド沢の本流にでてヤレヤレだ。
あともう少しの辛抱。マチホド沢本流を下り、千曲平から林道を歩いて車に戻り終了。

以前から行こうと思っていた沢だったが、思った通り愉しめる沢で、もっと登られていい沢だと思う。



11年7月23日~24日
小出俣川・マイホド沢~大ビノ沢下降